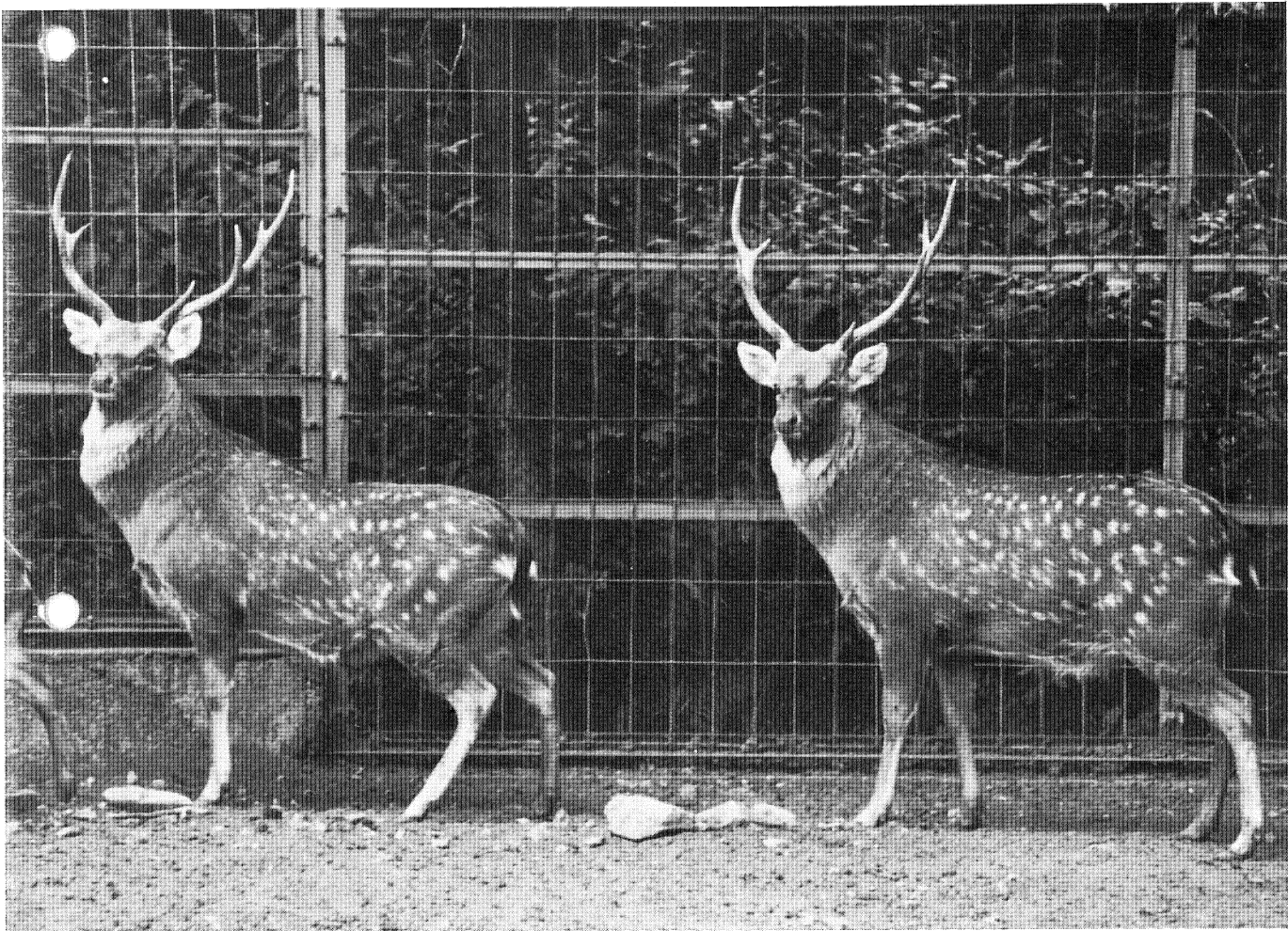


# わが山

No. 20

1981年12月



財団法人  
鹿児島市動物公園協会

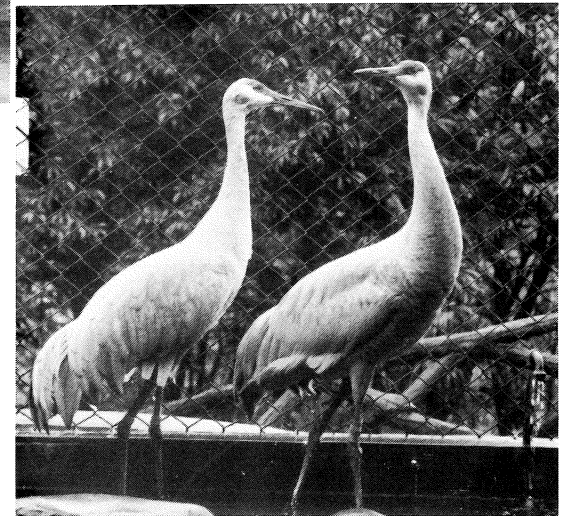


## ◀カピバラ

2月4日雄1頭、雌3頭の4つ子が誕生。昭和52年度の日本動物園水族館協会の繁殖賞を受賞して以来これまで合計13頭が誕生しました。体重50kgにもなるネズミたちの仲間です。

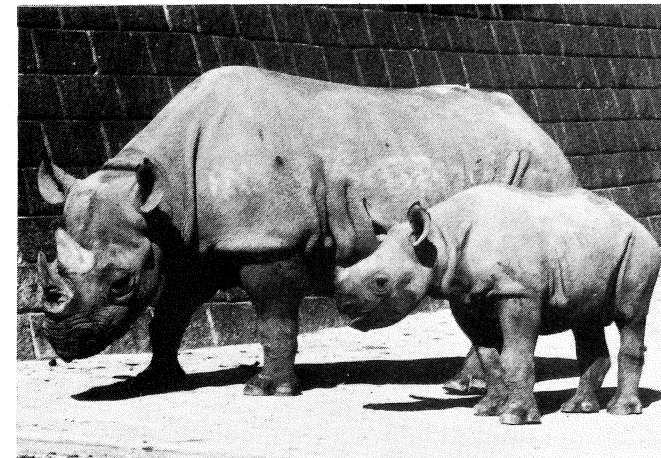
## ▼カナダヅル

3月20日、ひとつがいアメリカ国際ツル財団より贈られました。平川動物公園が繁殖のため国際ツル財団に貸し出しているソデグロヅルのお礼として贈られたものです。これで当園では世界に現存する14種のツルのうち10種類を飼育することになりました。



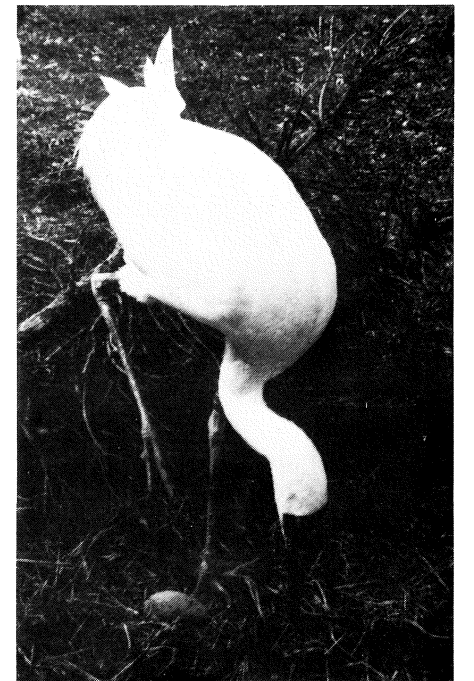
## ▼クロサイ

4月23日早朝、九州で初めてのクロサイの赤ちゃんが生まれ、夏休み期間中に小中学生から名前を募集した結果「クロペー」に決まりました。今では5000㎡のアフリカ園の芝生の中をキリン、シマウマ、ダチョウなどと一緒に走りまわっています。

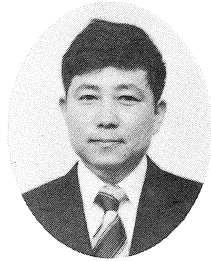


## ▶ソデグロヅル

アメリカ国際ツル財団に貸し出されているソデグロヅルの卵が6月4日ふ化したとの電報が届きました。昭和52年10月よりツル財団で繁殖が試みられていますが、これまでも産卵はするものの有精卵が少ないなどの理由でふ化までいかなかったので、この世界で初めての成功を機に数多くのふ化が期待されます。



## アマミノクロウサギを飼育して



平川動物公園 獣医師 酒 匂 猛

特別天然記念物、生きた化石、まぼろしの動物などさまざまな肩書を持ったアマミノクロウサギが平川動物公園に来てもう一年以上が過ぎました。

いろいろと試行錯誤しながら飼育して来ましたが、これまで観察した事について簡単に述べてみたいと思います。

エサは植物性で今までに約70種類もの物を食べました。好物はイモ、リンゴ、イヌビワ、オオバコ、シイの実などです。

性質は温和で環境になれやすい。ノウサギのように神経質でなく、盲動もしない。

音に対しては非常に敏感です。強風で騒がしい夜でも、私のおなかの虫がググーとなったのに気づくほど鋭敏な耳を持っています。

南国育ちにとって初めての冬でしたが、ふりしきる雪の夜でも元気に活動し、食欲も旺盛で寒さに強いことを証明してくれました。

夜間照明の影響について、20Wの白熱球や、赤、青、黄色の電球、30Wの蛍光灯などをつけて観察しましたが、どの色の灯りでもほとんど影響ありませんでした。従って夜間の活動の様子も良く見ることができました。

アマミノクロウサギも2種類の糞をします。1つは硬くて粗い普通の糞で、もう1つは軟かくきめこまかい表面につやのある糞です。しかも後者の糞は食べることがわかりました。これは栄養豊かな糞で、体の調子が悪いような時に多くみられました。

なお前者の普通の糞は一ヶ所にキチンと貯めるように排泄する習性がみられました。

その他、尿は1晩に7回すること、穴掘りが得意で1晩に1mも掘ったこと、体重が3kg以上にもなること、体温は平均で38.8℃であること、交尾の様子なども観察しましたが別の機会に述べたいと思います。

これまでアマミノクロウサギについて新しい発見があるたびにソクソク、ワクワクしながら夢中で飼育してきましたが、今後はぜひ繁殖にまでこぎつけたいと思っています。

## ◀表紙

ハナジカ (*Formosan Spotted Deer*)  
偶蹄目 シカ科

ニホンジカの一亜種で、台湾の中央高地山岳地帯に生息する。からだの白斑が美しく、日本各地の動物園でも飼育され、よく繁殖しているが乱獲で数が減っているため国際保護動物に指定されている。角は雄にだけみられ、長いもので70cmぐらいになる。体高80~90cm、体重50~80kgぐらいである。

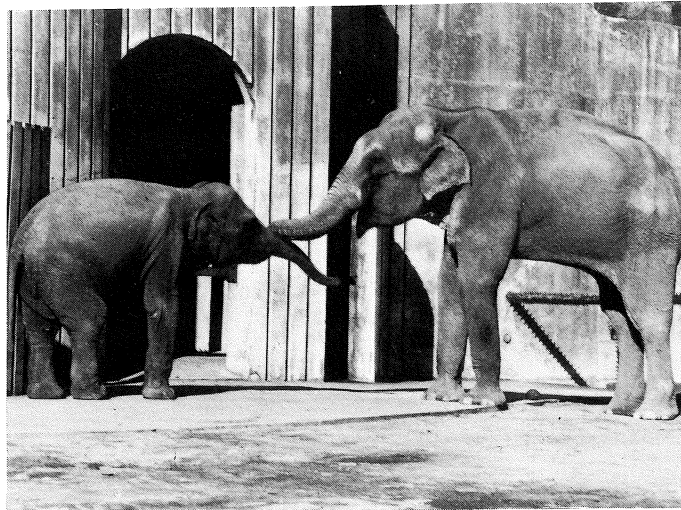
## ▼行事

1月2日 新春もちつき大会、ちびっこにえんぎもちをプレゼント  
1月2日~4日 新春お年玉大会、入園の小・中学生に福引を楽しんでもらいます。  
休園日・年末・12月29日から31日まで  
年始 1月1日  
1月2日以降は平常どおり。

\*

飼育動物数 (昭56・10現在)

ほ乳類	77種	363点
鳥類	87種	609点
は虫類	4種	8点
計	168種	980点



#### ◀インドゾウ

6月7日の計量記念日にゾウの体重測定を行ったところ、雄のドム君は2740kg、雌のバクちゃんは1240kgでした。ドム君は昨年の測定では2895kgだったので1年間で145kg減ったこととなります。



#### ▶ニホンツキノワグマ

6月15日、日本一の長寿グマ（メス）が死亡しました。このグマは終戦間もない昭和22年3月岐阜県より当時の鴨池動物園に夫婦で来園し、戦争で動物のいなくなった動物園にとって最初の大型動物で市民の話題をよんだそうです。この夫婦は子どもに恵まれず、オスは昨年3月26日に老衰で死亡しました。



#### ◀休養広場

昨年8月からフライングケージ上の丘を切りくずして工事中であった休養広場が完成し、9月1日より開設されました。水飲み場3ヶ所・トイレ2ヶ所・雨天休憩所もあり、まわりは桜の木で囲まれた芝生張りの広さ6000㎡の広場です。



#### ▶イヌワシ

国の天然記念物に指定されている「イヌワシ」が宮崎県児湯郡新富町の海岸で保護され、宮崎のフェニックス自然動物園で手当てを受け、すっかり元気になって8月19日平川動物公園に仲間入りしました。雌雄の区別はわかりませんが、口ばし、つめ、目とも鋭く、さすがに鳥の王者のかんろくです。

## 哺乳類の分類

### 霊長目

ショウジョウ科・テナガザル科・ゲレザ科・オナガザル科・オマキザル科・キヌザル科・メガネザル科・アイアイ科・インドリ科・キツネザル科・ガラゴ科・ロリス科・ツパイ科

### 翼手目

オオコウモリ科・キクガシラコウモリ科・ヒナコウモリ科・チスイコウモリ科・カグラコウモリ科

### 皮翼目

ヒヨケザル科

### 食虫目

テンレック科・ハリネズミ科・トガリネズミ科・モグラ科・ハネジネズミ科

### 貧歯目

アリクイ科・ナマケモノ科・アルマジロ科

### 有鱗目

センザンコウ科

### ウサギ目

ナキウサギ科・ウサギ科

### ゲッ歯目

リス科・ビーバー科・トビウサギ科・ポケットネズミ科・キヌゲネズミ科・メクラネズミ科・ネズミ科・ヤマネ科・トビネズミ科・ヤマアラシ科・キノボリヤマアラシ科・テンジクネズミ科・カピバラ科・パカラナ科・パカ科・チンチラ科・カプロミス科・デバネズミ科・グンディ科

### 有袋目

カンガルー科・ウォンバット科・クスクス科・ハンディコート科・フクロネコ科・フクロモグラ科・オポッサム科・フクロアリクイ科

### 単孔目

ハリモグラ科・カモノハシ科

### 鯨目

イルカ科・ネズミイルカ科・カワイルカ科・イッカク科・マッコウクジラ科・セミクジラ科・コクジラ科・ナガスクジラ科

### 食肉目

(裂脚亜目) イヌ科・クマ科・アライグマ科・イタチ科・ジャコウネコ科・ハイエナ科・ネコ科  
(鰭脚亜目) アシカ科・セイウチ科・アザラシ科

### 海牛目

ジュゴン科・マナティー科

### 管歯目

ツチブタ科

### 岩狸目

ハイラックス科

長鼻目  
ツウ科

奇蹄目  
ウマ科・バク科・サイ科

## 鳥類の分類

偶蹄目  
イノシシ科・ペッカリー科・カバ科・ラクダ科・マメジカ科・シカ科・キリン科・ブロングホーン科・ウシ科

ダチョウ目  
ダチョウ科

レア目  
レア科

ヒクイドリ目  
ヒクイドリ科・エミュー科

キーウィ目  
キーウィ科

シギダチョウ目  
シギダチョウ科

アビ目  
アビ科

カイツブリ目  
カイツブリ科

ペンギン目  
ペンギン科

ミズナギドリ目  
アホウドリ科・ミズナギドリ科・ウミツバメ科・モグリウミツバメ科

ペリカン目  
ネットアイチョウ科・ペリカン科・カツオドリ科・ウ科・ヘビウ科・ガンカンドリ科

コウノトリ目  
サギ科・ハシビロコウ科・シュモクドリ科・コウノトリ科・トキ科・フラミンゴ科

ガンカモ目  
サケビドリ科・ガンカモ科

ワシタカ目  
コンドル科・ワシタカ科・ヘビクイワシ科・ハヤブサ科

キジ目  
ツカツクリ科・ホウカンチョウ科・ライチョウ科・キジ科・ホロホロチョウ科・シチメンチョウ科・ツメバケイ科

ツル目  
クイナモドキ科・ミフウスラ科・クビワミフウスラ科・ツル科・ツルモドキ科・ラッパチョウ科・クイナ科・ヒレアシ科・カグー科・ジャノメドリ科・ノガンモドキ科・ノガン科

チドリ目  
(チドリ亜目) レンカク科・タマシギ科・ミヤコドリ科・チドリ科・シギ科・セイタカシギ科・ヒレアシシギ科・カニチドリ科・イシチドリ科・ツバメチドリ科・ヒバリチドリ科・サヤハンチドリ科  
(カモメ亜目) トウゾクカモメ科・カモメ科・ハサミアジサン科  
(ウミスズメ亜目) ウミスズメ科

ハト目  
サケイ科・ハト科

オウム目  
オウム科

ホトトギス目  
エボシドリ科・ホトトギス科

フクロウ目  
メンフクロウ科・フクロウ科

ヨタカ目  
アブラヨタカ科・ガマグチヨタカ科・タチヨタカ科・ズクヨタカ科・ヨタカ科

アマツバメ目  
アマツバメ科・カンムリアマツバメ科・ハチドリ科

ネズミドリ目  
ネズミドリ科

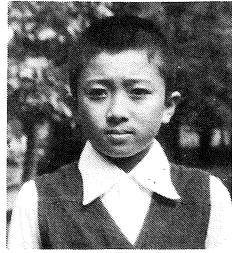
キヌバネドリ目  
キヌバネドリ科

ブッポウソウ目  
カワセミ科・コビトドリ科・ハチクイモドキ科・ハチクイ科・オオブッポウソウ科・ブッポウソウ科・ヤツガシラ科・カマハシ科・サイチョウ科

キツツキ目  
キリハシ科・オオガシラ科・ゴシキドリ科・ミツオシエ科・オオハシ科・キツツキ科

スズメ目  
ヒロハシ科・オニキバシリ科・カマドトリ科・アリドリ科・アリサザイ科・オタテドリ科・ヤイロチョウ科・マミヤイロチョウ科・イワサザイ科・タイランチョウ科・マイコドリ科・カザリドリ科・コトドリ科・クサムラドリ科・ヒバリ科・ツバメ科・セキレイ科・サンショウクイ科・ヒヨドリ科・コノハドリ科・モズ科・オオハシモズ科・レンジャク科・カワガラス科・ミソサザイ科・マネシツグミ科・イワヒバリ科・ヒタキ科・シジュウカラ科・ゴジュウカラ科・キバシリ科・ハナドリ科・タイヨウチョウ科・メジロ科・ミツスイ科・ホオジロ科・アメリカムシクイ科・ハワイミツスイ科・モズモドキ科・ムクドリモドキ科・アトリ科・カエデチョウ科・ハタオリドリ科・ムクドリ科・コウライウグイス科・オウチュウ科・ホオダレムクドリ科・ツチドリ科・モリツバメ科・フエガラス科・ニワシドリ科・フウチョウ科・カラス科

## 動物愛護作文入賞作品



### 県知事賞 「うら山のタヌキ」

田上小4年 堀田健史

「あっ、タヌキだ。」

父がひくい声で、おどろいたように言った。うら山の少し高い所に、2ひきのタヌキがあらわれたのだ。

父と弟とパンを持って行って見た。しげみから2ひきの顔がこちらをのぞいていた。パンを投げたら、タヌキはおどろいて、しげみにかくれた。「にげられたかな。」と思っていると、1ぴきがかごごと出てきて、さっとパンをくわえて、そのままいなくなった。

うら山で初めてタヌキを見たのは、ぼくが一年生の時の5月だった。百科じてんで調べたら、タヌキは夜行せいで、春から夏の初めに子どもを産むと書いてあった。母が、

「赤ちゃんのために、えさをさがしに出てきたのかもしれないね。」

と言ったので、それから毎日、家ぞくでタヌキにえさをやることになった。みそしるのだしをとった後のいりこや、残りのご飯を古いおさらに入れて置いた。ご飯はタヌキが運びにくいので、小さくおにぎりにしてやった。

それから1ヶ月ぐらいたった日曜日、うら山から「キッ、キッ、キッ」と聞いたことのない声をした。急いで弟とえさ場に行ってみると、そこで大さわぎが始まっていた。体全体が黒っぽく、せなかに白い毛のまざった赤ちゃんタヌキが5ひき、えさのうばい合いをしていた。ねずみより少し大きめだ。弟が、

「兄ちゃん、やっぱり赤ちゃんがいたんだね。」

とうれしそうに言った。親タヌキは、少しはなれた所にちょこんとすわって子タヌキを見ている。ぼくたちを少しもこわがらない。ぼくはもうすっかりうれしくなってしまった。

タヌキの赤ちゃんは、どんどん大きくなった。弟もぼくも、タごはんになると、

「もう、おなかがいっぱい。」

と言って、自分の分からタヌキにおすそわけをしたりした。タヌキたちはえさ場でぼくたちがくるのを待つようになった。

タヌキへのえさやりは、もう4年も続いている。

でも、今年の3月、とても心配なことが起こった。うら山にヘルメットをかぶった測りょうのおじさんたちが来た。うら山の上の県道を広げるといふのだ。おじさんたちは、仕事がしやすいように木を切ったり、道を作ったりした。ぼくが、タヌキの事を話すと、

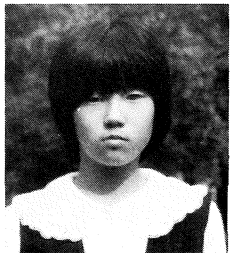
「ぼうや、あなが分かったら、けむりでせめたらすぐつかまえられるよ。」

「はくせいにしてたら5万円で売れるよ。」

など、勝手なことばかり言った。

それから、タヌキは用心してあまり出てこなくなった。朝、えさが全部なくなっているのだから、こっそりやってくるのだろう。

来年、うら山がコンクリートの山になってしまったら、タヌキたちはどこへ行けばいいのだろうか。ぼくは、うら山を見ながらいつも暗い気持ちになる。



### 市長賞 「私のピー助」

伊敷小5年 草野倫子

私が、ピー助と出会ったのは夏休みが今日からという日でした。

となりの家に来ていた植え木屋さんのおじいさんに、今生まれたばかりのスズメの赤ちゃんをもらいました。植え木の間をいたそうと、きっと巣から落ちたのでしょう。最初は、小さくて毛もなく気持ちが悪いような気がしましたがよく見

ると、とてもかわいい顔をしているので、自分で育てようと思いました。

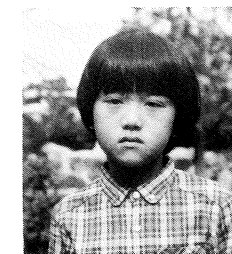
えさをすりばちでつぶして、スポイドで口の中に入れてやらないと、自分では食べられません。口にスポイドをもっていくと、大きな口をひらいてゴクンとのみこみます。4回ぐらい口を開くと、もうおなかがいっぱいになったのが、口を開きません。牛乳も、飲ませてみたりしました。お父さんから、しおものはやたらいけないと、いわれていたのに、そのたびに手をあらってピー助の世話をしました。

私の家で、チロというポメラニアンの子犬を飼っていますが、ピー助はチロをこわがっている様子はありません。チロは、「何かへんなのがいるな」というような目で見ていますが、いじわるはしません。外出する時も、ピー助を小さなかごに入れてえさを持って行きます。おぼんの日、おばあさんの家に行く時もいっしょです。おばあさんが、

「まあ、スズメを飼っているの、かわいいわねえ。」

と言いながら小さな「コブ」というくもを、取って食べさせてくれました。おばあさんの家から帰る時、車の中で何げなくピー助をみていると、1人でエサをつついて食べていたのでびっくりして、お父さんたちに教えました。ピー助が少しおとなになったような気がしてとてもうれしかったです。ピー助のカゴは、私たちの「イス」より少し大きいぐらいのカゴです。今では、毛も一人前にはえてきました。私が歩くと、後から行く方についてきたり、勉強をするとえん筆のしんをつついてじゃまをしたり、手を出すとピョンと手についてきます。そんなピー助が、とてもかわいくてたまりません。けれども心配な事もあります。それは、ピー助が生まれて40日ぐらいたった後でも、飛ぶ事が出来ないことです。飛ぶ練習をさせても飛べません。体も他のスズメに比べて小さくてあまりなまきません。ふつうのスズメの赤ちゃんは、親スズメが「バッタ」などを運んでそれを食べて大きくなるそうですが、ピー助は「あわ」だけで育ったので元気がないのかも知れません。今からは虫などをたくさん取って食べさせようと思います。

私は、一人っ子ですが、チロと、ピー助を弟たちのように思っているので、少しもさびしくありません。これからも、動物の気持ちを大切に、チロや、ピー助の世話を、いっしょけんめいに、していくつもりです。



### 県獣医師会長賞 「ぼくのペロ」

武小1年 かじきしんのすけ

9月21日、ぼくががっこうからかえってくると、かわいいこいぬがいました。

ぼくは、びっくりして、おかあさんに、

「どうしたの、このいぬ。」

ときくと、

「もらってきたのよ、かわいがってね。」

といました。ぼくは、うれしくて、ランドセルをからったまま、いぬをだきあげました。すると、ぼくのかおを、ペロペロなめるので、なまえを「ペロ」と、つけることにしました。

ペロは、くろくて、みみがたれています。けは、ふさふさしています。あたまをなでると、つるつるして、きもちいいです。目は、くりくりして、とってもかわいいです。

ぼくは、小さいときから、どうぶつが大スキでした。それで、おとうさんに、

「いぬをかって。」

と、おねがいをしました。でも、おとうさんは、

「しんのすけは、まだ小さいからちゃんとせわができません。」

といって、きいてくれませんでした。だから、ペロをもらってきたときは、うれしくて、うれしくてとびあがりたきもちでした。

あさ、ペロをさんぽにつれていきました。ぼくがかいだんをのぼると、ペロもとびながら、ついてきます。こうえんのすべりだいで、ペロといっしょにすべると、ぼくのせなかにぶつかって来ました。それでも、ペロはうれしそうでした。

ペロがきめられたところに、おしっこをしないときは、おかあさんがあたまをたたきます。ぼくは、それ

をみていると、じぶんがたたかれたみたい、かなしくなります。そのとき、ぼくは、

「こんどから、はこの中にするんだよ。」

と、ペロをだいてあげます。

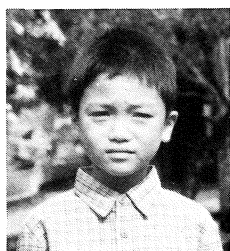
おとうとをみると、すぐおいかけて、あしにじゃれたり、とびかかってかおをなめたりします。おとうとがにげると、ますますついていきます。だから、とてもおもしろいです。

ペロは、チーズやビスケットをよくたべるので、ぼくは、じぶんのおやつをわけてあげます。すると、かわいいでなめながら、おいしそうにたべます。

ぼくたちが、おふろにはいるとペロもはいるたがって、キャンキャンなきます。おゆをかけるまねをすると、あわててにげていきます。

ぼくは、ペロにけいじけんカールのような、つよいいぬになってほしいです。ぼくは、ペロがびょうきにならないように、いっしょうけんめいそだてます。そして、おとうさんといっしょに、ペロのかわいいおうちをつくりたいです。

もう、ペロは、ぼくのたいせつなかまです。



### 市獣医師会長賞 「のうさぎ」

城南小2年 富ヶ原 大造

6月18日に、のうさぎの赤ちゃんをしりあいのおじさんが、おじいさんのうめ山から2ひきつれてきてくれました。

2ひきとも、こわそうにふるふるふるえてかわいそうでした。

ねこの赤ちゃんぐらゐの大きさを目は、ぱっちりあいていました。

ずっと、見ていたいたが、おとうさんが

「あまりみるな。しぬぞ。」

とうさくいうので、おとうさんがいない時ちょっとせなかにさわりました。ふわっとしていました。

早く、なにかたべさせてやりたいので、おとうさんと百かじてんでしらべたら、生まれて20日ぐらいたっていることがわかりました。でも、赤ちゃんがなにをたべるかは、書いてありませんでした。

ぎゅうにゅうをやったり、タンポポのはをやったりしましたが、どうしてもたべてくれませんでした。

ぼくは、2ひきともしぬかもしれないとしんばいになりました。

ぎゅうにゅうをのまないのは、うさぎのちししかのんだことがないからだろうと思いました。

つぎの朝、ぎゅうにゅうをあたためて、かみコップに入れておとうさんが、2ひきをだっこしてのませました。大きい方のうさぎが、ペロペロと、半分よりすこしなめてくれました。

「わあ、のんだのんだ。したをペロペロ出しているよ。」

と、みんな大きわぎでした。

ぼくは、ほっとしました。小さいうさぎがふるえてばかりいて、なかなかのまずしんばいでしたが、タガた、やっとのみしました。

4日目にはじめて、大きいうさぎをひざにだっこしたら、ふわっとしてあたたかかったです。

よく見ると耳がみじかく、目がくるとして、からだがかちゃ色で足をそろえてかわいかったです。

1しゅう間目に、かぞくで話しあって大きい方をよう子、小さい方にさと子と名まえをつけました。

よう子は、おかあさんのなまえで、さと子は、ぼくがいちばんかわいいもうとの名まえです。

つれてきた日は、よう子は135グラム、さと子は125グラムでしたが、1しゅう間したらよう子は175グラム、さと子は156グラムになりました。

はこから出すと、びんびんとはねて、ぼくのところによって来たので、すこしなれてきたのかと、うれしくて、かわいかったです。

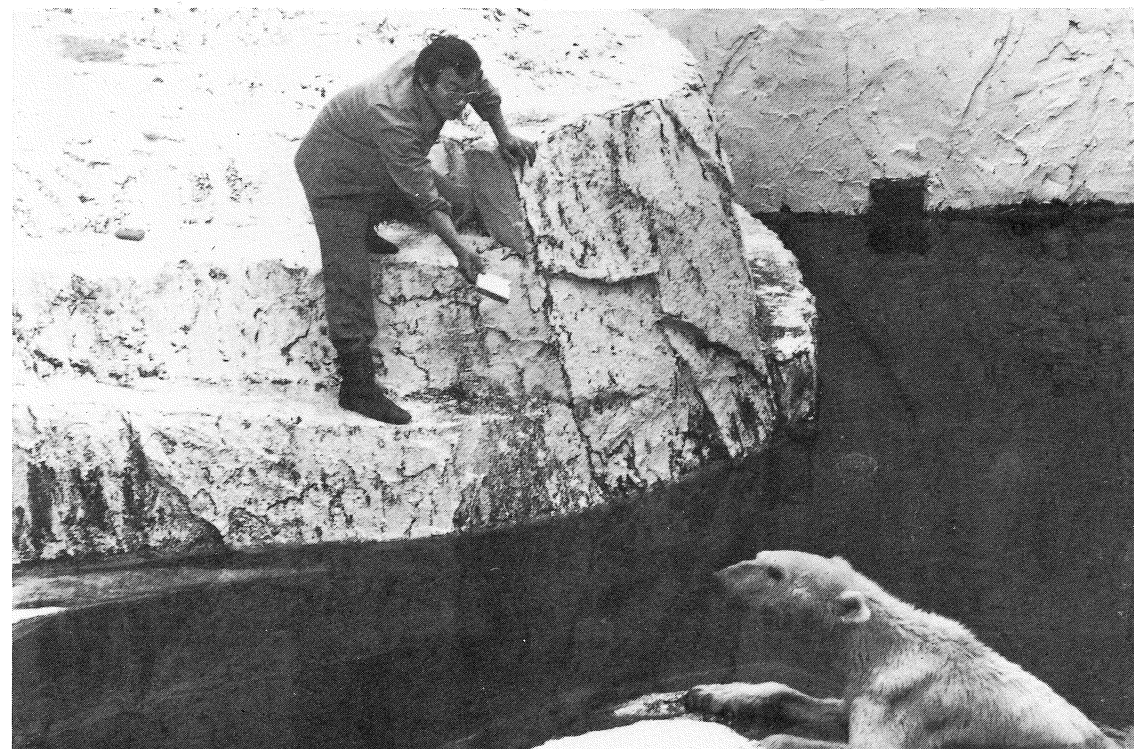
2しゅう間たったらよう子は190グラム、さと子は185グラムに大きくなってきました。

ようこは、ぎゅうにゅうをのむ時はこぼさずにじょうずです。さと子は、チポチポとこぼします。

3しゅう間目ぐらゐから、タンポポなどの草をたべるようになり、キャベツやにんじんなどもよくたべます。

今では、親ねこぐらゐに大きくなったので、そこは金あみではった木のうちを、かぞくで作ってやり、いつまでも、元気にそだつようにまい日せわしています。

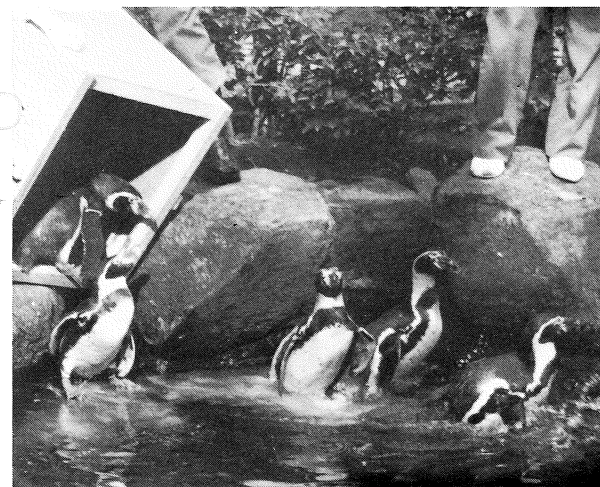
# ハイ！担当は私です



### ▲北極ぐま

昭和55年8月、動物公園に転勤してきていきなりどうもうな北極ぐまをはじめ、マレーぐま、ひぐま、ヒマラヤぐま、にほんつきのわぐまの担当になりました。特にこの北極ぐまには夏の暑い時など気を使い、時々大きな氷を寝室に入れてやります。今年6月日本一の長寿ぐまが死にましたが、この記録を破る飼育方と是非二世をたん生させるよう頑張っています。

飼育係 鹿島 勝徳 技師



### ▲フンボルトペンギン

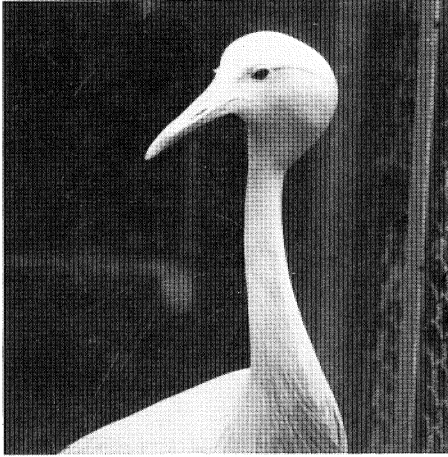
10月20日、新しく5羽が仲間入りしました。フライングケージ内の新しい巣穴が気に入っているようで、来年春には卵を産みヒナを育ててくれるでしょう。



### ▲鹿の角切り

今年も恒例の鹿の角切りが10月30日行なわれました。今年はハナジカのみで、半年間で50cmものびた角を切り落されたオスジカにとっては一年に一回の受難の日でした。

# 動物公園の顔



## ◀はごろもづる (Stanley Crane)

### つる目つる科

つる類は南アメリカ大陸を除く全ての大陸に分布するが、はごろもづるは南アフリカに生息する。コブラのように頭が大きく奇妙な感じを受けるが、羽色は真珠灰色でたいへん美しい。口ばしは短く小形のつるである。ほかのつるは湿地帯に住むのが多いが、このつるは草原でも生活する。

## 動物愛護作文募集入賞者

特選	ぼくのジョディー	武岡小	1	なかむらやすちか
〃	元気になったミチ	〃	2	須納瀬 啓
〃	すずめ	〃	3	大 蘭 正 史
〃	わたしの犬	田上小	4	高 須 えり子
〃	動物愛護と犬のなき声	錦江台小	5	宮 路 直 子
〃	私のピー子	武 小	6	山之口 その子



## ◀パース市長

11月2日オーストラリア・パース市のF・C・チャイニイ市長夫妻が来園し、オランウータンの公平君や幼稚園児たちの出迎えを受けたあと、4年前にパース市より種子を贈られ、今では立派に育っているユーカリ林を見学しました。オーストラリア園のアカカンガルー放飼場内にユーカリの記念植樹を行ない、ユーカリの状況については、コアラの餌として十分な量を得るためには、もうしばらくはかかるだろうとのことでした。

### 表紙題字

鹿児島市長 山之口安秀

ひらかわ No. 20 昭和56年12月1日発行 第20号  
 発行所 鹿児島市動物公園協会  
 〒 891-01 鹿児島市平川町5669-1 ☎0992 (61) 2326-8  
 発行者 山之口 安 秀  
 編集者 米 山 昇